資料２－２

「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会報告

2017 年 10 月
知床財団

１．部会の開催

平成 29 年度の部会は未開催。

２．平成 29 年度　事業実施状況

2-1.　知床情報玉手箱（利用施設最新情報ボード）サイトの運用　知床財団実施

○サイトの運営・情報の更新

・　昨年作成した情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」の情報更新を継続した。
・　2017/6/1～9/30 の 4 か月間で、13619 ページビュー(1 日平均 111 ページビュー)の閲覧があった。1 日当たりの閲覧数の最大は 8 月 10 日(繁忙期)の 1043 件、2 番目は 9 月 19 日(台風による閉鎖頻発日)の 491 件であった。

○サイネージ用ページの作成

・　個人のスマートフォンによる参照だけでなく、各種案内施設やホテルの館内 PC・サイネージ等で最新情報を表示できるよう、別途ページを作成した。知床自然センター、羅臼ビジターセンター、知床プリンスホテルなどで活用している。

知床プリンスホテルのロビーで投影されている知床情報玉手箱

＊下記サイトを表示するだけで、どなたでも、PC に館内展示に適した自動スクロール画面が表示できます。

・　日本語版　http://center.shiretoko.or.jp/i-box/ex_display/
・　英語版　http://center.shiretoko.or.jp/i-box/ex_display/english.html

2-2. フロントカントリー（自然センター周辺）での情報提供

○日刊ヒグマ情報の発信　　知床財団実施

知床自然センターにおけるレクチャー形式のヒグマ情報提供を継続している（4/20-10/20　毎日 9:00-9:15）。信頼性と速報性を兼ね備えたヒグマ情報の発信により、利用者自らの意思決定をサポートすることを目指す。

前年の実績から、1 日 1 回の実施は限定的で波及効果は低く、公園利用者へのインフラ的な情報を目指すのであれば、掲示＋インフォメーション＋web 閲覧などの活用が必須との課題が挙げられていた。本年 8 月より、知床半島ヒグマ管理計画の一環として、facebook をプラットフォームとするヒグマ情報の公式的発信が下記サイトで試行されており、連携を取っている。

https://www.facebook.com/pg/BearSafetyShiretoko/

○しれとこ森づくりの道「開拓小屋コース」新規オープン　　斜里町実施

知床自然センターを起点とする新しい散策コースが 9 月よりオープンした。これによりセンターから歩ける散策路は 3 つとなり、利用者の選択肢が増加した。

自然センターで配布中の
散策コース地図

＝＝＝以下「しれとこ森づくりの道」新規コース_実施計画より抜粋＝＝＝＝

＜しれとこ森づくりの道「開拓小屋コース」概要＞

斜里町が主催する「しれとこ 100 平方メートル運動」(以下、運動)では、多くの方々のご支援によって守り育てられているこの地の自然を適正に公開することを目的に、「しれとこ森づくりの道」の運営を行っています。2017 年 9 月 9 日より、かつての開拓家屋や牧場跡を巡る新たなコース「しれとこ森づくりの道・開拓小屋コース」をオープンしました。出発拠点となる知床自然センターと連携し、知床を訪れる多くの方々に、知床の自然と運動の歴史に触れる体験提供を目指します。

- 開設期間： 2017 年 9 月 9 日（土）～11 月上旬（積雪まで）
  2018 年以降、5 月～11 月に開設予定（状況により変更あり）
- 開設場所： 知床自然センター～共同放牧地往復　＊旧開拓家屋及び開拓小屋経由
- 所要時間： 約 2.5 時間
- 距　　離： 約 5 km（往復）
- 利用方法： 自由利用。知床自然センターにてマップ配布など情報提供。

＜運用の基本方針＞

・ 運動の取り組みと開拓の歴史への理解を進めるための仕組みづくりと情報提供を行います。
・ 森づくりの方針と生態系保護を尊重し、施設整備や運営上の人為的な介入は最小限とします。
・ 利用者の自己責任による利用を前提とし、利用者が自ら判断するために必要な情報の提供を行います。

＜運用方法＞

コースの利用方法は、基本的に自由利用です。特に利用時間などの定めはありません。
ただし、悪天候時やヒグマの出没状況によっては、コースの閉鎖を行う場合があり、長期間閉鎖する場合もあります。なお、コース閉鎖後の利用再開については、パトロールを行い状況に応じて判断を行います。ヒグマ対策の基本方針は以下の通りです。

・ コース周辺はヒグマの生息地域です。知床自然センターでは、ヒグマ情報の提供及び注意事項の周知を行います。コースを利用する際は、それらの情報を収集し、コース周辺はヒグマの生息地域であること、遭遇の可能性があることを認識した上で、遭遇回避の行動を確実に行ってください。
・ 積極的なヒグマの追い払いは基本的に行いません。ただし、出没が頻発する場合やヒグマが滞留する場合などはコースの閉鎖を行います。
・ 通過型出没への対応は「情報周知」、頻発または滞留型出没への対応は「コース閉鎖」を対応の基本的な方針とします。

2-3. バックカントリー情報の発信　知床財団実施

〇週刊登山道情報の発信

・ 知床情報玉手箱サイトにおいて、登山道の最新情報を発信する。発信期間は登山利用が多い 7 月から 9 月の 3 か月間とし、基本的に週に 1 回程度情報を更新した。

〇登山道マップ(日本語+英語表記)の販売

・ 6 月より販売開始し、18 拠点で 9 月末までに 696 部を販売した。

コースの難易度(グレード)表記について

・ 登山道マップの編集段階で、両町山岳会から「コースの難易度については、何らかの表記が必要」「利用者にコースごとの難易度を理解してもらうことが事故防止につながる」などの意見があった。このため、知床で利用できる主だった登山道・遊歩道の難易度を 5 段階のグレードに分類して表記した。グレードについては、環境省などが大雪山国立公園で運営している「大雪山グレード」を参照し、両町山岳会および部会メンバーにメール等による意見照会をして確定した。

・

連山エリアマップに掲載した登山道・遊歩道の難易度

3．参考情報：大雪山グレードについて

大雪山国立公園においては大雪山グレードに対応した標識の付け替えが進んでいる。

大雪山国立公園に新設された道標